

【舟橋村】
校務 DX 計画

1 舟橋村の校務DXの取組について

舟橋村では、校内に設置した校務用サーバーを使い、校務用端末による業務を行っている。令和元年度から統合型校務支援システム C4th を活用し、データの共有や成績処理、職員間の情報伝達など、業務の軽減を図ることができるようになっている。また、Microsoft アカウントを全ての教職員に付与するとともに、Wi-Fi を導入し、校内のどこに居てもタブレット端末を活用した授業ができる体制で、以下の校務 DX に取り組んでいる。

(1) ICT の活用

支援ツールを活用するための研修会の開催を関連企業に依頼して行い、教職員の ICT 技能の向上を図っている。また、ICT 支援員や GIGA スクールサポーターが中心となって、教職員の業務の軽減を図っている。さらに、ICT 推進委員の教員を中心とした研修会を行い、ICT を活用した授業力の向上を図る研修会を実施している。

(2) ペーパーレスの推進

職員会議で印刷していた資料を Microsoft の Teams を活用し、紙資料の削減を推し進めてきた。各職員に配布する資料もできるものはデータで対応をしている。また、保護者への配布プリントも安心安全メールを活用して配信し、ペーパーレス化を図っている。

(3) AI デジタルドリル等の活用

一人一台端末の導入に伴い、学習用ネットワークをクラウド化して「ミライシード」を導入し、学習のツールとして活用したり、宿題として活用したりしている。紙のプリントを削減、丸付けの手間を省いている。

(4) オンライン研修会への参加

立山区域の小学校等で行われるオンラインの研修会への参加を行っている。ZOOM を活用し、双方向での研修が可能となっている。

(5) GIGA スクールサポーター及び ICT 支援員の配置

舟橋村では小学校に GIGA スクールサポーターを、中学校に ICT 支援員を配置し、校務や教材作りの補助を行っている。全国学力テストの一部が CBT 化されるなどの新しいシステムに対応するために生じる業務の補助を行うことにより、教員の負担軽減になっている。

2 「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリストの自己点検結果」における課題

「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリストの自己点検結果」（文部科学省令和6年12月実施）を数値化した結果は、対象の舟橋村内の学校は 308.0 で、富山県平均をかなり下回り、富山県内でも県内 16 自治体中 12 位で、取組に差があることから、以下の校務 DX における課題があると考える。

(1) 教職員の ICT 活用への意識と技能スキルに差があり、ICT の活用に対する考え方も様々である。ICT を業務に効果的に活用するためには、苦手意識のある教員に対し

て、いかに意識の改革をおこなっていくのかが課題となっている。どのようにアプローチしていくかが課題である。また、アプリの使用方法を学んだり、習熟を図ったりするための時間や授業で活用できるマニュアルがない状況にある。具体的な活用方法を提案するなど、意識改革も含め課題がある。

(2) ルール・規則

舟橋村教育情報セキュリティポリシーを策定がなされていない状況で、個人情報等の漏洩リスク低減のためのルールが定められていない。また、校務用端末を校外に持ち出すことを想定していない。FAX や押印などの慣例となっている業務が一部に存在する。

3 今後の校務DXの取組についてこれらの現状を鑑み、今後は以下の項目について、重点的に校務DXを推進する。

(1) 教職員向けの取組

- ・教職員向けの研修会を開催し、ICT活用スキルの向上を目指す。
- ・アプリ制作会社による利活用を深めるための研修会を実施する。

(2) ルール・規則への取組

- ・教育情報セキュリティポリシーの策定の検討する（令和7年度～）。
- ・FAX・押印の見直し、修正に向けての検討を継続する（令和6年度～）。

(3) その他

- ・継続して、校務のクラウドサービス活用に向けた検討をする（令和6年度～）。
- ・次期校務支援システムに向けての利活用に向けた研修会を開催する。